

献血は、愛のアクション！

LOVE in **Action**

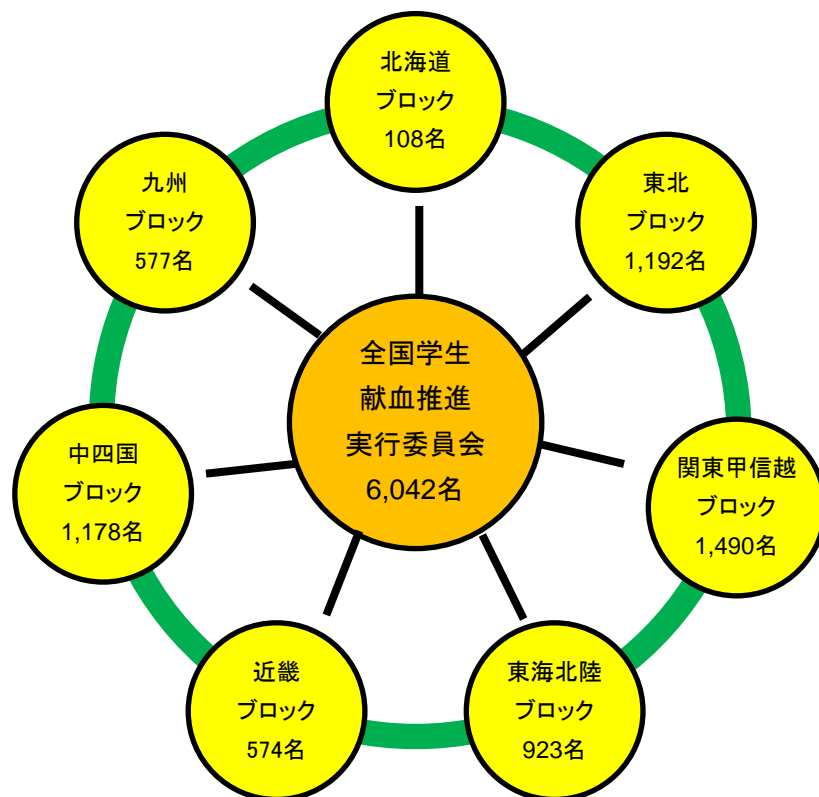
学生献血推進ボランティアの活動について

平成28年度
献血推進運動中央連絡協議会
平成28年11月1日

全国学生献血推進実行委員会
山口 真ノ介

1 学生献血推進ボランティアの組織体系について

若年層に対しての献血推進及び献血思想の普及を目的に活動を行っている、各都道府県の大学、短期大学及び専門学校におけるボランティアサークル等で構成されており、その代表組織である全国学生献血推進実行委員会において、学生相互の意見交換や全国統一キャンペーンの企画・立案等を行っています。



※人数は平成28年度の数値です

平成28年度全国学生献血推進実行委員会



2 全国学生献血推進ボランティアの活動

● 活動内容

ア 全国学生クリスマス献血キャンペーン

(ア) 目的

献血の輪の拡大を目的として、昭和63年度より学生の提案によって、全国統一キャンペーンとして実施され、若年層への献血の理解と協力を促し、冬場の輸血用血液の減少時期に毎年継続して実施している。

(イ) 実施期間

12月1日から31日まで

(ウ) 記念品等

学生同士で検討を行い、記念品やそのデザインを決定し、各都道府県で実施するキャンペーンの記念品として献血者へ進呈している。

《平成28年度の啓発用ポスター》



《平成28年度の記念品》



イ 全国学生献血推進代表者会議

(ア) 目的

各都道府県の学生代表者相互の意見交換及び親睦を図り、献血推進及び献血思想の普及に寄与する。

(イ) 主な内容

- ・外部講師による講演会
- ・学生による献血推進活動報告
- ・分科会討論

《第1部》

- ①学生献血推進協議会等の在り方
- ②モチベーションの上げ方
- ③若年層献血者をどのように増やすのか

《第2部》

- ①効果的な献血セミナーの実施方法
- ②学内献血実施時の工夫
- ③LOVE in Actionとコラボするなら何ができるか。



北海道ブロック

全道統一サマーキャンペーン



今年度は道内5支部合計で700名の献血者

関東甲信越ブロック

神奈川県学生献血推進連盟

キッズ献血

ショッピングモールにて、幼稚園児や小学生に
模擬献血を実施し「献血」に触れてもらう。



近畿ブロック

- ・東方紅楼夢イベントに参加(平成27年度より継続し実施)
 ※限定オリジナルクリアファイル、オリジナルリストバンドなどをプレゼント。
- ・学生団体との交流会(平成26年度より継続し実施)
 ※学生献血推進ボランティア×関西女子大学生連盟×日本薬学生連盟と交流会を開催して献血活動の輪を広げた。(平成27年度)
 ※平成28年度は、11月に実施予定

平成28年10月9日(東方紅楼夢イベント)



平成27年11月22日(交流会)



中四国ブロック

ブロック統一ムービー



九州ブロック

ブロック統一イベント

676名を招待

献血についてのクイズやゲストを招いたライブイベントを実施。



平成27年度に実施したアンケート結果（抜粋）を踏まえた 平成28年度に新たに行う活動！

《あなたの年齢を教えてください》

《献血したことがありますか》

《全国学生献血推進協議会を知っていますか》

Q2

～15歳	131
16～18歳	1971
19～24歳	7119
25～29歳	232
30～39歳	303
40～49歳	290
50～59歳	225
60～歳	135
不適合	159
合計	10565

Q9

①ある	2756
②ない	7753
無記入	56
合計	10565

Q12

①知っている	1233
②知らない	6426
無記入	94
合計	7753

平成28年度に全国で取り組む新たな活動！！
学生献血推進ボランティアによる大学生等への献血セミナーを10月下旬から各都道府県で順次実施！！

《献血したきっかけはなんですか》

Q14

①呼び込み	487
②ポスター	98
③立て看板	67
④家族・友人に誘われて	578
⑤報道	24
⑥チラシ	17
⑦会場の雰囲気	38
⑧ハガキ	1
⑨HP/SNS等を見て	8
⑩学校・職場で知って（授業など）	453
⑪献血セミナー	36
⑫学内・職場献血	636
⑬記念品	26
不適合	287
合計	2756

献血したきっかけで、①家族・友人に誘われた、②学内献血、③献血セミナーがあることから、自らの団体の認知度の向上も目標に、学生自身が学生（大学・専門学校等）に献血の必要性、輸血を受けられた患者さんの声を届けるために学生献血推進ボランティアによる献血セミナーをしていくことを考えた。

これは、血液センター職員と連携することで可能であると考えている。また、同世代からの献血啓発で心に響かせ学内献血時に献血行動を促せると考えられる。

また、複数年計画で一つの目標に向けてPDCAサイクルをまわし継続して取り組んでいきたいと考えている。

ご清聴ありがとうございました。

